

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年12月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2874003805		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	姫路ケアセンター そよ風		
所在地	兵庫県姫路市神田町4丁目15番地 (電話) 079-299-6700		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成19年11月7日	評価確定日	平成19年12月10日

## 【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 11人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	~ 2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	約31,500 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4	要介護2	8		
要介護3	5	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均	78歳	最低	68歳	97歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人真和会 相仁クリニック、医療法人社団 新日鉄広畑病院
---------	--------------------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

姫路ケアセンターそよ風は(株)メデカジャパンが全国に拠点を持つそよ風ネットワークの一つであり、姫路駅近くの町中にある。平成18年3月オープンの新鮮なグループホームであり、真新しい建物と近代的なホールが印象的である。1階にデイサービス、2階に2ユニット18名の利用者が生活している。両ユニットの真中には詰め所が位置し、左右対称に1ユニットずつの造りとなっている。看護師のセンター長を中心に「和やかな空気の流れる環境の中で家庭的な生活」の提供を目指し、職員も認知症実践者研修を積極的に受講し、認知症ケアの実践に向かっている。居室や食堂には写真や馴染みの作品が飾られていて、居心地のよい生活空間づくりの努力がうかがえる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	平成18年11月の前回評価の改善課題としてあげられたサービス計画書の書類整備と、ソファと利用者手作りのロールクラフトの壁飾りにより、居心地のよい空間づくりへの具体的な取り組みがされていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	意欲的に自己評価に取り組まれている。今回の自己評価により、ターミナルケアへの取り組みの必要性をあげられている。入居者の重度化を予期し、スタッフのレベルアップの取り組みを考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	5月の運営推進会議では、自治会長、婦人会長、民生委員、家族の出席で、利用者の生活ぶり等の現状報告が行われた。又、今後の課題として個別ケアへの取り組みが話し合われた。次回の会議には地域包括支援センター職員の参加が予定されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	利用者の暮らしぶりや健康状態については面会時に報告され、金銭管理においては説明を行い、承認印をいただいている。又、家族会が発足し、年1回の集まりも行われている。その時の要望により、避難訓練が行われた。家族の意見、苦情、不安はセンター長の聞き役に徹する対応から、改善と安心に繋がれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	地域の寺の祭りや、小学校の音楽会に参加している。1周年記念には近隣の住民を招待したり、餅つきには荒川校区の男性の助けがあったりと、地元の人々と交流することに努めている。今後も年1回の町内掃除に参加することや、船場公民会で老人会との繋がりもち、地域の老人会の集まりには、事業所を提供することなど、地域との連携に期待したい。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(株)メデカジャパンの「そよ風」としての基本理念を基に、「(姫路)ケアセンターそよ風に来てよかった。和やかな空間をつくる。」をセンター長が提唱し、地域への働きかけも行っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(株)メデカジャパンの「そよ風」の「基本理念」、「介護サービスの基本方針」、「品質方針」を職員は朝礼時に全員で唱和している。		理念の唱和とともに、理念の理解と取り組みの方向性等を話し合う機会を作られる事を期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の寺の祭りや、小学校の音楽会に参加している。事業所の1周年記念には、近隣の住民を招待し、餅つきには荒川校区の男性の助けがあり、地元の人々と交流することに努めている。		今後も年1回の町内掃除に参加し、船場公民会では老人会との繋がりを持ち、地域の老人会の集まりに、事業所を提供するなど、地域との連携に期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成18年11月の前回評価の改善課題としてあげられたサービス計画書の書類整備と、ソファーと入居者手作りのロールクラフトの壁飾りによる居心地のよい空間づくりへの具体的な取り組みがされていた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月の運営推進会議では、自治会長、婦人会長、民生委員、ご家族の出席の元、入居者の生活ぶり等の現状報告が行われた。又、今後の課題として個別ケアへの取り組みが話し合われた。次回の会議には地域包括支援センター職員の参加が予定されている。		
6	9	市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者（介護保険課）に運営に関する質問等を行い、市からの指導の元にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態については面会時に報告され、金銭管理においては説明を行い、承認印をいただいている。		家族との連絡調整等のやり取りの記録も含め、今後は書面による報告についても期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、苦情、不安はセンター長の聞き役に徹する対応から改善と安心に繋がられている。家族会が発足し、年に1回の集まりが行われ、その場での要望により避難訓練が行われた。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	センター長を中心に職員の確保を事業所の課題として取り組んでいるが、職員の定着率が低い。		職員が業務を理解し、組織で支える業務が利用者の不安のない生活にとっていかに大切であるかを管理者・職員がともに研修し、職員の定着と意欲の向上に取り組むことを期待する。


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は認知症実践者研修を積極的に受講し、認知症ケアの実践に向かっている。		職員の資格や雇用条件も異なり、研修の受講機会も異なるが、今後は研修計画等を作り、具体的な職員の育成と意欲の向上を図られる事を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者のネットワークが発足したばかりであるが、積極的な参加を目指している。また、個別的にも情報交換を行っている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の申し込み時前に、担当の介護支援専門員等の同行も求め、利用者・家族の状況確認を行っている。入所後は個別の対応時間を確保し、他の利用者との関係に配慮している。		事前の面接等により、利用者、家族の希望や思いをより細かに把握し、入所後の個別の継続した介護計画に反映される事を期待する。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ともに生活し支援する利用者という意識とともに、場面場面では教えてもらう事も多い高齢者として敬う気持ちを持ち、接している。		認知症高齢者への接し方に、職員一人ひとりの思いの違いがみられ、統一した支援ができていない部分もある。介護計画に沿った支援の実践と、職員への指導ができる体制を期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の意向等の把握を行い、個人の利用者や集団で対応を行っている。</p>		<p>利用者1人ひとりの意向を尊重し、一人ひとりに対応できるように、より一層の工夫を期待したい。</p>
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>平成18年11月の前回評価の改善課題としてあげられ、順次サービス計画書の書類整備が具体的に取り組みされていた。</p>		<p>介護計画の実施について、利用者本位ではあるものの、職員の接し方の統一が不十分であり、介護計画に沿った介護の実践を望みたい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングの期間が短期間（3ヶ月）に統一され、見直しはされてはいる。</p>		<p>業務的にも落ち着いた見直しができるように、個人の状況にあった見直し期間の設定や、今以上の職員の意見の採用等も期待したい。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>グループホームは2階にあり、1階の通所介護事業所との催し物等での利用者の交流がある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病気による入院のため退所が考えられる利用者があり、入所前のかかりつけ医との連携を継続している。また、家族が付き添いで受診する場合も事業所と連絡を確実にしている。事業所対応の受診後も、必要に応じ家族に詳しく報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化を予期し、職員の意識や知識の向上を計り、終末期の介護への取り組みの必要性をあげている。		現在は終末期の介護は行っていないが、今後取り組む意向もあり、研修等を積み重ね、安心できる生活が提供されることを期待する。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	あるがままに受け止める事を大切にして、声かけや、その人に合わせた対応を行っている。		職員は利用者一人ひとりを大切にする対応を心がけているが、研修等を行い、さらに一人ひとりの利用者を、大切にする取り組みを期待する。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の希望を尊重し、本人に無理のないペースに配慮した生活を送れるように、支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット毎に対応が違うが、利用者は職員とともに配膳・後片付け等に参加している。		ユニットにより参加の度合いに差があり、配膳、片付け以外でも何も参加していない利用者もあり、グループホームの機能を活かした利用者への支援を望みたい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯はほぼ決まっているが、利用者一人ひとりの体調に合わせた柔軟な入浴に取り組んでいる。浴室には深さの違う浴槽が2つあり、利用者の希望と状態に合わせて使用している。また、一人ひとりで湯の入れ替え・清掃を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴の中から、一人ひとりの趣味や特技を見出し、それぞれに職員が支援しながら行っている。		利用者一人ひとりを尊重し、支援しているが、十分な関わりができていない利用者もあり、今後の取り組みに期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事前計画に基づく季節の催し物やドライブなどを行い、天気のよい日には、近所に散歩に出かけている。		ユニットによって、また個人によって外出の頻度が異なるため、本人の希望をできる限り取り入れた対応ができるように期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの玄関は、道路に面し交通量も多く危険なため、日中も暗証番号式の電子錠となっているが、玄関までのエレベーター及び玄関から通所介護事業所に通じる扉は開放され、通所介護事業所からの出入りは施錠もない。		鍵をかけないケアについては、研修を継続し、グループホームの機能を理解する取り組みを、事業所が常に意識することを期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>家族会の要望も取り入れ、消防署の指導で避難訓練を行った。</p>		<p>地域の消防団や住民等への働きかけも今後期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量のチェックと水分量の確保は、一日を通じて実施している。夜間の水分補給も対応している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテンの開け閉めやテレビの音量調節等は利用者が率先して行っている。作品の展示やフラワーアレンジメントの実施により、共用空間に季節感を取り入れている。</p>		<p>共用空間は食堂と併用であり、職員からも目が届きやすいが、生活の中で利用者同士が話したり、居心地よくくつろげる空間としての配慮をさらに期待する。</p>
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>一人ひとりの利用者が、それぞれに自分にあった居室を、職員の支援によってレイアウトしていた。使い慣れた家具等の持ち込みも見られた。</p>		

 は、重点項目。